



中山道柏原宿見どころ案内

柏原宿の概要 天保14年(1843)調べ

宿場の長さ: 13町(約1.5km)

戸数: 344軒 人口: 1,468人

・本陣	1	・もぐさ屋	9
・脇本陣	1	・豆腐屋	9
・問屋場	5	・造酒屋	3
・旅籠屋	22	・医師	1
・煮壳茶屋	12	・商人	28
・請負酒屋	10	・諸職人	24

照手姫笠地蔵

中世の仏教説話「小栗判官(おぐりはんがん)照手姫」に由来するお地蔵さんです。向かって右側のやや小振りの石仏が照手姫笠地蔵です。

寝物語の里

寝物語の里とは、近江と美濃の国境の小さな溝を隔てて並ぶ二つの旅籠に泊まった旅人が、壁越しに寝ながら話をしたという伝説からつけられたものです。

江戸時代までは東西の文化、風俗習慣、経済流通の接点の地として広く知られ、作家の司馬遼太郎さんなど取材に訪れた文筆家や研究者も多いようです。

野瀬山 長比城跡

元亀元年(1570)、浅井長政が織田信長の近江侵攻に備え、野瀬山山頂に築いた城です。高くて厚い土塁がよく残っています。

白清水

中世の仏教説話「小栗判官照手姫」にまつわる伝説がある池です。古事記に登場する倭建命(やまとたけるのみこと)が傷をいやした「居宿(いさめ)の泉」の一つといわれています。

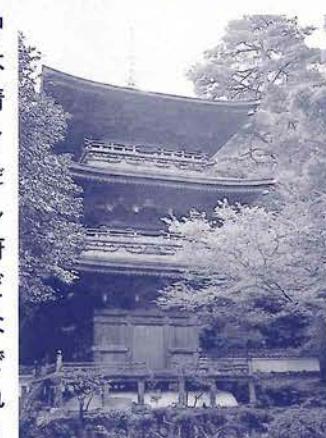
成菩提院

伝教大師が東北に向かうときに小さなお堂を建てたのがはじまりで、寂照山円乗寺(じゃくしょうざんえんじょうじ)成菩提院と称する天台宗の古刹です。戦国期には信長、秀吉、小早川秀秋などの武将が宿営しています。家康、秀忠から寺領160石余を受けて栄え、中本山として末寺80余ヶ寺、僧100人余、檀家230軒余を数えたこともあります。また、徳川家康の参謀と言われた天海大僧正(てんかいだいそうじょう)が住職を務めた時期もあり、多くの文化財が伝わっています。



清瀧寺徳源院

宇多源氏の流れをくみ、中世に近江北部を領した佐々木京極氏の菩提寺で、靈通山清瀧寺徳源院といいます。佐々木京極氏は、五世高氏(道誉どうよ)が足利尊氏の下で活躍したことにより栄え、室町幕府では四職家に数えられるほど重要な地位を占めるようになりました。戦国期には家臣であった浅井氏に実権を奪われますが、浅井氏の滅亡後、十九世高次が時の権力者信長、秀吉、家康の間を巧みに渡り歩くことで再興し近世大名となりました。



境内には歴代の宝篋印塔34基が並び、墓地全域は国の重要文化財、庭園は県の名勝とされています。

春は桜、初秋は萩、晚秋は紅葉と四季折々の風情を楽しむことができます。

北畠具行卿の墓

後醍醐(ごだいご)天皇を擁立した討幕計画である元弘の変(1331)の中心人物・北畠具行は、捕らえられ鎌倉に送られます。その途中この地にとどまり、護送する京極高氏(道誉)によって再三幕府へ助命嘆願されますがかなわずこの地で処刑されました。

御茶屋御殿跡

江戸初期の頃、将軍が上洛するときの宿泊や休憩のために建てられた御殿の跡です。家康、秀忠、家光の3人で合計14回ほど利用しています。

柏原宿歴史館

中山道柏原宿の様子を豊富な資料と分かりやすい解説で紹介しています。



伊吹堂亀屋佐京商店

盛時には十軒近くあったもぐさ屋のうち、今も残るただ一軒の老舗です。現在の建物は文化12年(1815)のもので、大きな福助さんが飾られた店頭のたたずまいは、歌川広重が描いた浮世絵のままです。建物裏にある池泉回遊式の庭園もすばらしい。

ただし、現在住まいされている商家であり、観光施設ではありません。



この印刷物は、グリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリントインク認定工場が印刷した環境配慮製品です。

